

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 11 月 25 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3472500887		
法人名	医療法人好縁会		
事業所名	グループホームふれあい		
所在地	東広島市西条町寺家7429 (電話) 082-424-8801		
自己評価作成日	平成26年10月29日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3472500887-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成26年11月20日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

医療法人好縁会全体で取り組んでいる生活作り10か条に基づき、介護を行う。
そうする事で入居者様の生活の質を上げると共にグループホームに入居されてからも御本人の幸せとは何かを御本人・御家族・職員が一丸となって御本人に出来る事・して欲しい事を探せている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は平成16年開設のグループホームで、近隣には法人のクリニックや介護施設などが充実し、医療の支援体制が整っているほか、周囲はコンビニエンスストアやスーパーなど買物に便利でありながら、田畑など自然豊かな立地である。施設の構造は平屋建てであり全体的に日当たりが良い。玄関は間口が大きく段差も無く、自由で開放的な雰囲気を持つ事業所である。法人全体として生活作り10か条に基づき、質の高い介護サービスを目指しており、研修を専門とする部署による充実した研修体制など、法人全体として職員の教育にも力を入れている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念に則り事業所の目標を立て、それに準じた目標を個別に計画する用紙を作成（チャレンジシート）	朝礼や申し送り時に理念を確認し合っているほか、法人理念および生活づくり10か条に基づき、事業所の行動計画と職員一人ひとりの行動計画（チャレンジシート）を定め、日々の具体的な取り組みに反映している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣への買い物や散歩を通して地域の方と日常的に挨拶・会話を交わし交流を行っている。	食材の買出しや散歩など、近隣に出かける際は地域の方や店の方との挨拶や会話に心掛けたり、消防団の活動や防災活動のほか、事業所の夏祭りに地域住民を招くなど、地域への働きかけや結びつきを意識的に強める交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人としては研修部の部長等が地域にて講演会等を行い、事業所としては相談に来られた方について認知症の理解や支援方法等をアドバイスしている。又、入居者の御家族にも外出・外泊の際には支援の方法をアドバイスし、御家族との交流を増やせるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議の内容についてはスタッフに回覧し、ミーティングを通してサービスの向上を図っている。	運営推進会議には、行政代表として地域包括支援センターの職員や、地域代表として女性会の方、家族には1年交代で代表をお願いして会議に参加してもらい、事業所運営に様々な意見をもらっている。また会議の議事録は家族全員に配布して周知を図っている。	現在は利用者の家族代表のみの参加だけであるが、今後は全ての家族が運営推進会議へ参加がしやすいように働きかけ、幅広い意見を集約して事業所運営に寄与していくことが望まれる。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議のメンバーとして参加して頂き、ケアサービスの実際を伝えていく。また、市からの専門的なアドバイスも取り入れる事で市の要望からも外れなサービスを提供できるよう取り組んでいる。	市と共に介護予防体操を普及させたり、事業所の利用者以外のケースへの対応を、地域包括支援センターと一緒に考えるなど連携を計っている。法人全体の取り組みとして、地域に研修講師を派遣するなど市との連携強化のために日々取り組まれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>内外の研修を通して、身体拘束に対する理解を高めている。また、昼夜間での安全目的以外での施錠は行っておらず、玄関も開放している。</p>	<p>入社時のオリエンテーションにより身体拘束防止のための勉強会を行っているほか、身体拘束防止委員会も設置している。ケアの工夫により身体拘束にならないようにリーダーの指導がなされており、現在、身体拘束事例はない。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修会などへ、積極的に参加し、その後事業所において勉強会、伝達研修等を開いている。またヒヤリハットなどを通して、小さな事でも見過ごさない体制作りをしてる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>法人内での研修に参加し、制度の勉強・理解を行っている。また、その内容について事業所内にて伝達研修を行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時に同意を得ており、その後も家族会や個人的な質問随時対応している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>電話や面会時に御要望を受けた場合には、申し送り時やミーティングにて通達し、改善を行っている。</p>	<p>家族会を年に1～2回行われているほか、面会時に随時行う聞き取り、受診の相談等の用事の時に電話での聞き取りを行っている。そのため、具体的な介助方法の改善や、外泊の相談、運動をして欲しいという要望にはトイレまでの動線の工夫で運動量を確保するなどの取り組みがなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	責任者会議や普段のミーティング、普段の会話などから、意見や提案など取り入れるよう努めている。改善が必要なものについては各リーダーと検討し反映させている。	ミーティングや普段の会話の中から意見や提案を取り上げるほか、管理者による面談、責任者会議、月1回の職員会議でも意見を求め、献立の改善など、サービス向上に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	チャレンジートの導入にて個々の年間目標を定めやりがいに繋げている。また年2回の評価にて昇給を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修に参加し、スキルアップに繋げている。事業所としては、法人の研修部からのアドバイザー派遣にて研修を行いスタッフ全員でのOJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内の他グループホームとの連絡会議や研修会等での情報交換、他法人の同業者との電話での空室状況の確認・パンフの配布等はあるが、訪問等交流を深めていきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者の担当を決め、日常生活に積極的にかかわり、信頼関係を築ける様努めている。また、一日の中でスタッフが座って利用者と一緒に茶を飲む時間を作る事で自然と話やすい雰囲気を作っていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	電話や面会、手紙、アセスメントなどを通して、できるだけ受け止める努力をしている。また、事業所に対して、アンケートを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	センター方式を取り入れ対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日頃から、野菜の皮むきや食器洗い、洗濯畳みなど一緒に行い、自らが生活しているような環境を築いている。本人が日常出来る動作を見極め御自分で出来る事はして頂くよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	衣替えや布団の入れ替えなど節目に応じた対応を御家族には依頼し、御本人の生活の一端を支えて頂く。また、御家族とスタッフとでは御本人は御家族の方がよい笑顔を見せる事を伝え、面会に来て頂きやすい環境を準備する。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔からの友人や、親戚の方が面会に来られたり、馴染みの美容院の活用など事業所内で完結しなくて良いものは完結させない。また地元にお墓参りに帰られるなど、家族の協力を求めながら行っている。	昔からの友人の面会ができるように配慮したり、行きつけの美容院やお墓参りなどへの支援、遠方に家族がいて面会になかなか来られない場合は電話で会話してもらっている。本人の馴染みの人や場所との関係継続の支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤立しがちな利用者をリビングにお誘いしたり、利用者間に職員が介入することで、関係が築ける様支援している。また、アクティビティの機会を利用し交流の場を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	季節の挨拶状をお送りしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を取り入れ、家族や本人の想いを尊重している。意思疎通困難な方の想いの尊重は難しいが、生活暦や、日頃の表情等から汲み取るよう努力し、家族の想いと共に意向の把握をしている。	本人の生活歴や家族への聞き取り、日々の表情や会話等から、本人にとって楽しみながら思いを表出できるように配慮を行うことで、本人や家族の思いを重視した介護計画を作成する取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービスの経過等の把握に努めている。	センター方式での生活暦や趣味などをお聞きし、入居前の住環境に近づける様努めている。また、なじみの家具など、お持ちいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	食事時間など、大まかな目安は決めてあるが、起床時や、昼間の休み時間、入浴の有無など、個人のペースに合わせ様心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>家族の意向や職員との検討を加えた上で、アセスメントシートや介護計画書を用い、ケア担当を中心にニーズの把握をしている。</p>	<p>一人の職員が利用者1～2名を担当し、ケアマネジャーと共同でサービス計画を作成する。その結果、「自宅に帰りたい」という利用者に対し、あえてタクシーに乗ってもらって自分で帰ったように演出し、本人に落ち着いてもらうなど、職員のアイデアを上手く反映する取り組みがなされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日誌や個別の生活記録のほかに、栄養アセスメント等を行い、日々の変化を記録している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>空床の場合、ショートステイとしての利用が可能。また、軽度の方の利用の受け入れも介護予防の事業として、体制作りができています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>敬老会などの行事にはボランティアの方々に参加して頂き、催しものを行って頂いている。また、見守りボランティア等も活用できないか検討している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>母体法人クリニックと24時間連携している。また、他の科に受診の場合、往診に来ていただいたり、紹介状にて通院されている。可能な御家族には同行して頂き、医師と直接やり取りをして頂く。</p>	<p>法人のクリニックからは週3回の往診があり、訪問看護など、緊急時の体制が整っているほか、紹介状で専門医への受診も促している。入居前のかかりつけ医を継続して受診を希望される場合にも、家族同行のもと受診が継続できるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	医療連携加算を行っており、より密度の高い支援をしている。週に1回、母体法人の看護師が当事業所に来られ、状態を把握している。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	常に医療機関と連携している		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	医師、看護師、家族、職員でカンファレンスを持ち、説明、情報の共有、今後の方針など話し合い、支援できるようにしている。	重度化や看取りのための事前確認書を利用者全員に説明し書面に残している。実際に重度化した場合にはカンファレンス後に同意書を取っており、情報の共有やケアの方針について家族と話し合った上で支援が行われている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	急変や事故時に夜間待機ナースに連絡が取れるシステムを導入している。応急手当や初期対応に関しては、主治医より指示がでている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	消防署の職員の方からの協力の下、利用者・職員で避難訓練をしている。また、同敷地内の事業所が合同で行う事で災害時には全員で対処出来るよう準備をしている。	昼間想定と夜間想定の間2回、隣接する法人の事業所とともに消防署の協力のもと行われている。地域の方にも理解と協力の呼びかけを行っているほか、消防団にも加入することで地域の防災のために協力できるような努力がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の人格を尊重した、言葉掛けや支援を行っている。	トイレ誘導の際も、そっと声かけをするなど、丁寧に誘導する配慮が行われているほか、入浴は個別浴槽であり、脱衣場に次の利用者が待機しないなどのプライバシーに配慮した取り組みがなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	最後には自己決定ができるような言葉掛けを意識している。また、拒否される事に関しては強要しない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者個々のペースに合わせるよう心がけている。散歩など望まれたとき、一緒に外出できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	必要に応じて、家族に衣類等の補充や、理髪店に依頼し、理髪の出張サービスにて対応している。また、その日の洋服などは声かけをしながら、自己決定を促している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜の皮むきなど、職員と一緒にいたり、会話しながら一緒に食事を楽しんでいる。メニューに関しては、入所者の好きなものや、食べやすい物を取り入れるようにしている。	野菜の皮むきやお盆並べなど、できることを行ってもらうことで食事の雰囲気作りに努めているほか、職員が買い出している朝食と夕食は好みを反映できる。昼食は配食だがメニューの要望を反映することもできる。また、行事食や嗜好調査など、利用者が食事を楽しんでもらえるような取り組みがなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養バランスや量など，栄養士の指導の下，適切に確保している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後，義歯洗浄，うがい，ハミンググッドを使用し，口腔ケアを行っている。また，内部研修にて，適切な口腔ケアの仕方についての研修を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを考え，時間を目安にトイレ誘導をしたり，入所者が醸し出すサインなど見過ごさないよう，努力している。</p>	<p>排泄パターンの把握や，トイレ着座時の腹圧をかけるタイミングにより自律的な排泄を促しているほか，ソワソワしたり機嫌が悪くなったりする利用者からのサインを見逃さずトイレ誘導を行うことで，排泄の自立に向けた取り組みがなされている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>本人の排泄リズムを把握し，医師と連携しながら，適度な運動，消化の良い食事，牛乳や水分などの摂取に配慮している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴時間は完全に自由とはいえないが，体調や気分によって順延する等対応している。</p>	<p>定期的な入浴のほか，夕方や就寝前など，利用者の希望によっては個別に対応しているほか，足湯なども活用して柔軟に対応している。入浴したくないという利用者には，時間を変えて声かけするなどの配慮がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	その日の状態などにより、昼夜逆転することもあるが、日中適度な運動を行うなど努力している。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	服薬は職員が管理している。処方の際は、医師・薬剤師から説明を受け、服薬の際にも確認し、飲み込まれるまで見守っている。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	洗濯畳や掃除など個々に合わせた形で役割を担っていただいている。また、一緒に外に散歩にでかけたり、土地柄土を触る事が習慣となっている人が多い為、畑の草むしりや花を植えたりと外での活動も行っている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	頻繁ではないが、花見や紅葉狩りなどの季節の行事、その他日常生活でドライブに行ったり、近くのスーパーに買い物に行ったりしている。	季節の外出行事のほか、ドライブや公園への外出、近くのコンビニエンスストアでジュースを買ってくるなど、突発的な対応にも柔軟に対応できるような取り組みがなされている。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	家族管理を基本とし、面会時など所持金を確認していただいている。個々の力量に応じて、保管管理できるように図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	在宅時代に携帯電話でやりとりをされていた方には携帯電話を入所してからも持参して頂き、御家族との連絡を自由にして頂いている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	カーテンの色などにも配慮している。また、季節に応じて壁画を貼ったりと季節感を演出している。	リビングには暖色系の色を採用し、壁画や利用者の作品の掲示も行っている。日当たりも良く、野菜の栽培も行っているほか、畳の部屋で休むこともでき、居心地の良い空間づくりに取り組まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファや和室を利用している。また、仲の良い入居者様同士で居室で一緒に過ごされる事もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には本人の馴染みのものを置いている。	居室には本人の馴染みのものを置くことができ、入居前に使用していた家具を持ち込め、持込を禁止しているものは原則無く、居心地の良い居室のための配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々の力や能力を生かし、無理のない自立支援を行っている。また、トイレや居室などは、分かりやすく大きく表示するなどできるだけ自立した生活を送れるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念に則り事業所の目標を立て、それに準じた目標を個別に計画する用紙を作成（チャレンジシート）		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣への散歩を通して地域の方と日常的に挨拶・会話を交わし交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人としては研修部の部長等が地域にて講演会等を行い、事業所としては相談に来られた方について認知症の理解や支援方法等をアドバイスしている。又、入居者の御家族にも外出・外泊の際には支援の方法をアドバイスし、御家族との交流を増やせるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議の内容についてはスタッフに回覧し、ミーティングを通してサービスの向上を図っている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議のメンバーとして参加して頂き、ケアサービスの実際を伝えている。また、市からの専門的なアドバイスも取り入れる事で市の要望からも外れないサービスを提供できるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	内外の研修を通して、身体拘束に対する理解を高めている。また、昼夜間での安全目的以外での施錠は行っておらず、玄関も開放している。		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	研修会などへ、積極的に参加し、その後事業所において勉強会、伝達研修等を開いている。またヒヤリハットなどを通して、小さな事でも見過ごさない体制作りをしてる。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	法人内での研修に参加し、制度の勉強・理解を行っている。また、その内容について事業所内にて伝達研修を行っている。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	入居時に同意を得ており、その後も家族会や個人的な質問随時対応している。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	電話や面会時に御要望を受けた場合には、申し送り時やミーティングにて通達し、改善を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	責任者会議や普段のミーティング、普段の会話などから、意見や提案など取り入れるよう努めている。改善が必要なものについては各リーダーと検討し反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	チャレンジートの導入にて個々の年間目標を定めやりがいに繋げている。また年2回の評価にて昇給を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修に参加し、スキルアップに繋げている。事業所としては、法人の研修部からのアドバイザー派遣にて研修を行いスタッフ全員でのOJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内の他グループホームとの連絡会議や研修会等での情報交換、他法人の同業者との電話での空室状況の確認・パンフの配布等はあるが、訪問等交流を深めていきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者の担当を決め、日常生活に積極的にかかわり、信頼関係を築ける様努めている。また、一日の中でスタッフが座って利用者と一緒にお茶を飲む時間を作る事で自然と話やすい雰囲気を作っていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>電話や面会、手紙、アセスメントなどを通して、できるだけ受け止める努力をしている。また、事業所に対して、アンケートを行っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>センター方式を取り入れ対応している</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日頃から、掃除やゴミ捨て等を手伝って頂き、自らが生活しているような環境を築いている。 本人が日常出来る動作を見極め御自分で出来る事はして頂くよう支援している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>衣替えや布団の入れ替えなど節目に応じた対応を御家族には依頼し、御本人の生活の一端を支えて頂く。また、御家族とスタッフとでは御本人は御家族の方がよい笑顔を見せる事を伝え、面会に来て頂きやすい環境を準備する。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>御家族が面会に来られたり馴染みの美容院の活用など事業所内で完結しなくて良いものは完結させない。家族が面会に来られ易いよう笑顔での対応に気をつけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤立しがちな利用者をリビングにお誘いしたり、利用者間に職員が介入することで、関係が築ける様支援している。また、アクティビティの機会を利用し交流の場を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	季節の挨拶状をお送りしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を取り入れ、家族や本人の想いを尊重している。意思疎通困難な方の想いの尊重は難しいが、生活暦や、日頃の表情等から汲み取るよう努力し、家族の想いと共に意向の把握をしている。また、面会時に日常生活の報告を行い、そこからの会話を介護に反映させる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービスの経過等の把握に努めている。	センター方式での生活暦や趣味などをお聞きし、入居前の住環境に近づける様努めている。また、なじみの家具など、お持ちいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	食事時間など、大まかな目安は決めてあるが、起床時や、昼間の休み時間、入浴の有無など、個人のペースに合わせ様心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>家族の意向や職員との検討を加えた上で、アセスメントシートや介護計画書を用い、ケア担当を中心にニーズの把握をしている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日誌や個別の生活記録のほかに、栄養アセスメント等を行い、日々の変化を記録している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>空床の場合、ショートステイとしての利用が可能。また、軽度の方の利用の受け入れも介護予防の事業として、体制作りができています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>敬老会などの行事にはボランティアの方々に参加して頂き、催しものを行って頂いている。 また、見守りボランティア等も活用できないか検討している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>母体法人クリニックと24時間連携している。また、他の科に受診の場合、往診に来ていただいたり、紹介状にて通院されている。可能な御家族には同行して頂き、医師と直接やり取りをして頂く。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>医療連携加算を行っており、より密度の高い支援をしている。週に1回、母体法人の看護師が当事業所に来られ、状態を把握している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>常に医療機関と連携している</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>医師、看護師、家族、職員でカンファレンスを持ち、説明、情報の共有、今後の方針など話し合い、支援できるようにしている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変や事故時に夜間待機ナースに連絡が取れるシステムを導入している。応急手当や初期対応に関しては、主治医より指示がでている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防署の職員の方からの協力の下、利用者・職員で避難訓練をしている。また、同敷地内の事業所が合同で行う事で災害時には全員で対処出来るよう準備をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の人格を尊重した、言葉掛けや支援を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	最後には自己決定ができるような言葉掛けを意識している。また、拒否される事に関しては強要せず、タイミングを変更して援助させて頂く。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者個々のペースに合わせるよう心がけている。趣味活動や、掃除の援助などその方の興味のある事に対して配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	必要に応じて、家族に衣類等の補充や、理髪店に依頼し、理髪の出張サービスにて対応している。また、その日の洋服などは声かけをしながら、自己決定を促している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事中のテレビ観賞を行わないようにし、会話しながら一緒に食事を楽しんでいる。メニューに関しては、入所者の好きなものや、食べやすい物を取り入れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養バランスや量など，栄養士の指導の下，適切に確保している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後，義歯洗浄，うがい，ハミンググッドを使用し，口腔ケアを行っている。また，内部研修にて，適切な口腔ケアの仕方についての研修を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを考え，時間を目安にトイレ誘導をしたり，入所者が醸し出すサインなど見過ごさないよう，努力している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>本人の排泄リズムを把握し，医師と連携しながら，適度な運動，消化の良い食事，牛乳や水分などの摂取に配慮している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴時間は完全に自由とはいえないが，体調や気分によって順延する等対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	その日の状態などにより、昼夜逆転することもあるが、日中適度な運動を行うなど努力している。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	服薬は職員が管理している。処方の際は、医師・薬剤師から説明を受け、服薬の際にも確認し、飲み込まれるまで見守っている。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	洗濯畳や掃除など個々に合わせた形で役割を担っていただいている。また、一緒に外に散歩にでかけたり、土地柄土を触る事が習慣となっている人が多い為、畑の草むしりや花を植えたりと外での活動も行っている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	頻繁ではないが、花見や紅葉狩りなどの季節の行事、その他日常生活でドライブに行ったり、近くのスーパーに買い物に行ったりしている。		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	家族管理を基本とし、面会時など所持金を確認していただいている。個々の力量に応じて、保管管理できるように図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	在宅時代に携帯電話でやりとりをされていた方には携帯電話を入所してからも持参して頂き、御家族との連絡を自由にして頂いている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	カーテンの色などにも配慮している。また、季節に応じて壁画を貼ったりと季節感を演出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファや和室を利用している。ソファが定位置の御利用者もおられ、思い思いの場所で過ごしておられる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には本人の馴染みのものを置いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々の力や能力を生かし、無理のない自立支援を行っている。また、トイレや居室などは、分かりやすく大きく表示するなどできるだけ自立した生活を送れるよう工夫している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい

作成日 平成27年1月8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	利用者の家族については家族代表のみの参加だけであるが、今後は全ての家族が運営推進会議へ参加がしやすいように働きかけ、幅広い意見を集約して事業所運営に寄与して行く事が望まれる	御家族が気軽に集まれるよう情報の提供を行う	運営推進会議の案内を御家族全員に配布し、御家族代表とは別に参加して頂けるよう働きかける	12ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。